

# 中国における「郷村振興」戦略による郷村の変容

——「郷風文明」を巡って——

王 瓊\*

## The Rural Transformations by the Rural Revitalization Strategy in China: Around Rural Civilization

WANG Qiong

This paper discusses China's policy of the rural revitalization strategy based on the field survey in rural areas of China in recent years. The government considers maintaining rural culture to be the most important task of the rural revitalization policy though we can find considerable changes of rural society. Through the field survey including interviews with several kinds of people in rural areas, this paper throws light on the actual situations of the changes in rural areas of China, and analyzes the current domestic circumstances under the rural policy. The farmers in China have become getting richer and richer in recent years, but there are many livelihood problems to be solved in the rural areas: giving children a good education, arranging the family wealth, providing the good medical service and taking good care of the aged. China's rural areas are constantly urbanizing, but the rural population is getting smaller, and the people are getting older, therefore, improving efficiency in the rural areas has become very important issue. In order to truly achieve the goal of common prosperity, China can learn from Japan's successful experience, making use of its advanced technology, while China can provide Japan with more markets. This will bring a win-win future for rural revitalization in China.

キーワード：郷村振興，郷風文明，農業，農村，農民，資源

Key Words : rural revitalization, rural civilization, agriculture, rural area, farmer, resources

### はじめに

「郷村振興」(Rural revitalization) 戦略とは中国の習近平国家主席が2017年10月18日の第19回中国共産党代表大会の中で提出した政治的戦略のことである。習主席は三農と

---

\* 中央大学政策文化総合研究所客員研究員

Visiting Research Fellow, The Institute of Policy and Cultural Studies, Chuo University

呼ばれる農業・農村・農民に関する問題を国家の経済と人民の生活における根本的な問題であるとし、中国共産党が解決すべき最重要課題と定めた上で、「郷村振興」戦略の実施を指示した<sup>1)</sup>。

2018年1月2日に中国国務院は中央一号文件の中で「中共中央国務院の郷村振興戦略実施に対する意見」を公表及び頒布した。2018年3月5日には李克強国務院総理は「政府工作報告」の中で「郷村振興戦略は、より一層力を入れて実施する」と述べた<sup>2)</sup>。

2018年5月31日に中共中央政治局は「国家郷村振興戦略企画（2018～2022）」について審議し、同年の9月には中共中央国務院より「郷村振興戦略企画（2018～2022）」を頒布し、それぞれの状況に合わせて郷村振興を徹底的に実施するよう全国各地や各部署に要求した<sup>3)</sup>。

2021年2月21日に「中共中央国務院の郷村振興戦略を全面的に推進し、農業農村の現代化を加速させることに対する意見」という中央一号文件を公表した。2月25日には北京市に「国家郷村振興局」という機関を設立し、それまでの郷村振興戦略を本格的に再始動した<sup>4)</sup>。これは1978年から40年続いた都市部中心の「改革開放」の延長にあり、これからの40年では農村を中心に据えた「改革開放」政策になると称されている。

そこで本稿では、なぜこのタイミングで中国政府は郷村振興という国家戦略を提出したのか、政策の理念と具体的な計画はどのようなものか、政策の実施にしたがって、実際の農村における郷村振興の実態はどのようなものか、それに伴いどのような社会変化が見出されるのか、という問題について、実地調査にも基づきつつ検討したい。その際、1963年から「農村振興」戦略を続けている日本の状況にも比較の視点から着目することにより、考察を深めたい。日本は既に優れた農業技術や農業管理体制を有しており、農業資源・技術の発展とそれらを活用してきた経験に関する知見が、中国の「郷村振興」において、持続的発展に役立つ面があるのではないかとこの点も視野に入れる。

## 一、「郷村振興」戦略の背景

中国では改革開放以来、都市部を中心に国家を発展させてきた。そのため農村部には未開発の地域が多く残っており、都市部との生活水準や収入の格差が大きいのが現状である。

21世紀以降、農村部でも大規模な土地開発や都市化が進められた。農村部では土地や職業を失った多くの若者が、故郷の農村を離れて都市へと流出したため、農村部では人口が急減した<sup>5)</sup>。

2008年のリーマンショックは、世界の工場と呼ばれた中国にも深刻な影響を与えた。

当時、中国の経済を支えていた投資・消費・輸出のすべてにおいて停滞状態に陥ることとなった。東部湾岸地区だけでも6万件以上の工場が倒産し、農民出身の労働者だけでも2,000万人以上が失業、新卒の400万人以上が就職難に直面した。こうした現実には民衆は不満を覚え、社会情勢は不安定な状況となった<sup>6)</sup>。

中国政府はこのような社会情勢を考慮した上で、2008年11月に4万億計画という経済政策を打ち出した。4万億計画とは、政府が2010年までの間に4万億元を投資し、経済の回復や市場のバランス維持を保障するというものである。住宅・鉄道・高速道路・空港などのインフラ整備に重点を置き、農村の電力、飲水、道路、校舎、医療の充実なども含めて投資対象とした。政府はこの政策の中で、特に農民の収入を増加させることを強調した<sup>7)</sup>。

一方、リーマンショックによる失業で農村に戻った多くの若者は、土地もないため、生活を維持する職業を必要とすることになった。政府はこれらの若者が地元での生活に定着すれば、農村部の復興の労働力になると同時に、人手不足問題も解消できるようになると考え、「郷村振興」戦略の実施を考案した。その目的は、農村に多額の投資を行うことにより、農民たちに仕事の機会や収入源を提供して、その収入を増加させることである。そして裕福な農民の地元農村での活躍を促すことを通して、最終的には都市の発展と同様に農村の発展も達成することである。これは政策の中で描かれた、将来的な中国の理想像であり、いわゆる2050年までの「中国夢」でもあると言えよう<sup>8)</sup>。

## 二、「郷村振興」戦略の位置づけ、内容と目標

2017年12月29日の中国中央農村工作会議で、初めて中国の特色的な社会主義を反映した「郷村振興」について言及された。「郷村振興」戦略は「農業を夢がある産業」、「農業を農民にとって魅力がある職業」、「農村をみんなは生活が安心できるような美しい家園」にしようという内容であり、その最終的な目標は、農業と農村の発展を優先事項とする基本方針の下、農業、農村の現代化を実現することである<sup>9)</sup>。

2019年8月19日、「中国共産党農村工作条例」が施行された。これは郷村振興に対する政策や制度の整備とも言える。この条例の中で提示された「三農工作」（農業、農村、農民と関わること）は、一貫して全党工作の最重要事項となっている<sup>10)</sup>。

2021年4月6日、中国国務院新聞事務室は「貧困の消滅と中国による実践」という白書を公表した。この中で中国政府は2020年の時点で中国は全面的に貧困から脱出したとしている。さらに政府の政策の重点を、貧困脱出から「郷村振興」の全面的な推進へと転換するとした<sup>11)</sup>。

以上から、貧困からの脱出と郷村振興は国家の産業戦略の一つであり、基本的な国策でもあると位置づけられていることが分かる。2020年まで実施された貧困からの脱出はこれから実施される「郷村振興」の基礎や前提となる部分であり、「郷村振興」は貧困からの脱出の延長及びアップグレード版であると考えられている。

2012年11月8日、中国共産党の第18回代表大会の中で「二つの百年」という国家建設の目標が提出された。一つは中国共産党が成立してから100年（1921～2021年）の時点で、裕福な社会を達成すること、もう一つは、中華人民共和国（新中国）が成立してから100年（1949～2049年）の時点で、繁栄、裕福、民主、文明、和平の揃った社会主義強国となることを達成することである<sup>12)</sup>。前述したように、政府は2020年時点で既に貧困から脱出したと発表しているのだから、これで一つ目の100年である裕福の社会の達成は事実上実現したと明示していることになる。したがって、残りの2050年までの中国における一番重要な国策は「郷村振興」戦略だけであると言える。では、「郷村振興」戦略とは、一体どのように郷村を振興するというものなのか、ここではまず郷村振興戦略の5つの方面の内容を具体的に見てみる<sup>13)</sup>。

#### (1) 郷村産業の振興

農業生産の方式や経営体系、管理体制を再構築し、農産物の産出量の増加だけでなく質・量の向上を目指す。それと同時に土地の整理や契約した土地の使用期間の延長によって、農業経営の規模拡大や生産効率の向上を図る。

#### (2) 郷村人材の振興

農村では新規参入農家の人材育成が急務である。さらに、人材・土地・資金・産業が揃った好循環も同時に形成する。

#### (3) 郷村文化の振興

道德教育や大衆文化の形成、伝統的な郷村民俗や純朴な習俗を養成することによって、農民の精神的な成長を促し、農村社会の文化レベルを向上させる。

#### (4) 郷村生態系の振興

エコ開発を基本とし、農村の環境問題に総合的に取り組む、農業を通してグリーンニューディールを実施する。

#### (5) 郷村組織の振興

共産党のリード、政府の責任、社会連携、共同参加、法の保障という現代的な要素を取り入れた郷村管理の体制を確立する。

以上のように、郷村を徹底的に振興するために、「産業の活性化（产业兴旺）、環境に配慮した住みやすい街づくり（生态宜居）、郷風文明（乡风文明）、管理による成果の達成（治理有效）、生活水準の向上（生活富裕）」という具体的な振興の目標が要求されてい

る。これらの中でも、「産業の活性化」は特に重要である。農業の発達だけでは郷村振興の達成が可能であるとは言えず、産業全体の活性化こそが郷村の振興につながるということである。「環境に配慮した住みやすい街づくり」は郷村振興の実現への鍵である。良好でエコロジカルな居住環境は郷村や中国全体にとっても重要なポイントである。「郷風文明」とは、郷村振興には文化的な成長も必要であることを意味する。郷村の産業がいくら繁栄し、農民が経済的に裕福になろうと、心の中の文化や文明が進歩に追いついていない場合、本当の意味で郷村振興とは言えないということである。「管理によって成果を得ること」とは何事においても基礎となるものである。郷村は国家の経済・文化の源泉であるため、郷村の管理は国家管理の中で最も重要な役割となる。「生活水準の向上」とは最も根本的な目的である。これは郷村振興の原点であり、終点でもある。郷村振興の目的や目標は農民の生活のためであり、農民が裕福になることこそが最終的な終着点であるからである。以上5つの「郷村振興」の内容は、互いに密接に関連しており、相互の協同や連動が不可欠である<sup>14)</sup>。

ここまで郷村振興の内容や目標について述べてきたが、これらの目標達成に向けての計画は段階的に決められており、以下のようになっている<sup>15)</sup>。

- ① 2020年までに郷村振興を大きく推進し、制度や政策の整備を完成させる。
- ② 2035年までに郷村振興をほぼ達成し、農業、農村の現代化を実現する。農業の構造を根本から改善し、農民の就職率も向上させた上で貧困問題の解消をより一層進め、確実に共同富裕へ歩むこと。基本的に都市と農村の公共サービスの均等化を実現し、農村と都市のどちらとも関わる政策体制の整備を完成させる。郷村の習俗を文明的に新しい水準まで到達させ、郷村の効果的な管理と、環境への配慮、美しく住みやすい郷村の構築を実現する。
- ③ 2050年には郷村を振興し、「強い農業」、「美しい農村」、「裕福な農民」を実現する。

本稿では、現時点で「郷村振興」戦略の2020年までの目標は達成したとされる点を前提とした上で、実際にこれが現在の郷村にどのような変容を与えているのかについて、「郷村振興」戦略の目標の1つである「郷風文明」を対象として具体的に考察していく。

### 三、「郷村振興」戦略の核としての「郷風文明」

#### 1. 「郷風文明」(Rural civilization) の概念と位置づけ

政策の中で、「郷風」とは、農民が郷村において物質的かつ精神的な生活をする中で、自然に形成し定着した習俗や価値観などを示し、「文明」とは「野蛮」と相対する人間社会の進歩を指しているとされる。「郷風文明」とは、農村の人文社会的な環境を文明化する

るという意味である。「郷村振興」戦略の下で、「郷風文明」は農民たちに思想・文化・道徳水準の向上と、農村での文明や科学を奨励する社会的な雰囲気形成の意味を与えた。さらに農民の生活水準とそれに相応しい教育、衛生、健康、体育などの事業を展開することを出発点としている。

2005年10月11日、中国共産党第16回中央委員会の第5回全体会議で通過した「中共中央の国民経済と社会発展に関する第11回目の五カ年計画に対する提言」の中で、「生産発展、生活裕福、郷風文明、村容整潔、管理民主」という「新農村建設」の目標を掲げ、初めて「郷風文明」の概念を提出した<sup>16)</sup>。そして2006年の中央1号文件の「中共中央国務院の社会主義新農村建設に関するいくつかの提言」の中で、社会主義新農村建設(The construction of new socialist countryside)を正式に展開すると明示した。

さらに2017年10月の中国共産党第19回中央委員会で「郷村振興」戦略が提出されると、2018年2月4日には中央1号文件の「中共中央国務院の郷村振興戦略の実施に関する提言」の中で「郷村振興」戦略の実施が決定され、その目標が「産業の活性化、環境に配慮した住みやすい街づくり、郷風文明、管理によって成果を得ること、生活水準の向上」であると再確認された<sup>17)</sup>。

2005年の「新農村建設」から2018年の「郷村振興」戦略に至るまでの間で、一貫して変わらなかったのは「郷風文明」だけである。言い換えると、「郷風文明」は農村建設の中で、「郷村振興」戦略を成功させる要であり、核となるものでもあると位置づけられている。

## 2. 「郷風文明」の内容

政策上で規定された「郷風文明」の内容は、主に以下の4項目からなる<sup>18)</sup>。

(1) 社会主義の核心的価値観<sup>19)</sup>をもとに農民の思想や道徳を強化すること

近年は農村の経済の活性化や生活水準の向上に伴い、利己的な考えの人が増えている。村に対しての社会的な責任感や公共道徳意識が薄く、家庭内での家族間の愛情も薄く、子育てや親孝行、隣人との友好関係も少ない。結果的に家庭や村の安定にとって大きな不安要素となっている。そのため、農村では農村固有の道徳教育、信用教育を通して、社会的責任感・集団意識・ルール遵守意識・地元愛などを強化しなければならないとされる。

(2) 農村の公共文化を充足させること

公共文化は農村の倫理規範や価値観を表すものである。しかし現在の農村では公共文化活動の提供不足や、活動自体の文化水準が低いなどの原因で、農民が文化的な活動に積極的に参加することができない。したがって、農民を対象とする公共文化の施設やサービスの充足が必要である。農民が好む娯楽活動や農民向けの芸能活動などを幅広く提供できる

公共文化のシステム（村民学校、道徳講座、伝統文化教室、農家書店、町立図書館など）が、農村を活発化して労働者の熱情や知恵を引き出すことができ、最終的には「郷村振興」戦略の実現につながるとされる。

### （3）農村の伝統的な文化を伝承および発展させること

文化には国家や民族の内在的な実力が現れる。文化は民衆の団結や教育、感化や社会の気風にも重要な役割を担っている。また、政策の狙いは「伝統的な中華文化に含まれる思想、道徳規範などから時代に則したものを精練及び革新し、中華文化の魅力を恒久的に後世へと伝承してゆく」ことである<sup>20)</sup>。よって伝統ある農村の文化の伝承、発展が肝要である。農村において優秀な農耕文化を含めた人文思想を保護し、農業の文化遺産を合理的に利用すること。さらにインターネットなどの現代的な技術を用いて文物・遺跡・伝統村落・民族村落・伝統建築・伝統芸能・芝居・演劇・民間工芸・少数民族文化などを伝承し発展することを政府として奨励する。

### （4）社会に悪い影響を与える古い習俗や慣習を改造、排除すること

近年、農村では望ましくない社会傾向や慣習が台頭した。自身の経済状況を考えずに結婚の披露宴を豪華に執り行ったり、親の葬式を盛大に行ったりする。これはご祝儀を狙うという理由のほか、世間の中で互いに張り合うという悪い慣習も影響している。また、国家の経済や交通状況の改善に伴って人々の移動が便利になった一方、都市から受ける悪影響も少なくない。ギャンブル・詐欺・浮気・児童売買・育児放棄などの都市からの悪影響は、農村に昔からある固有の慣習を破壊して人間関係にも大きな影響を与えた。これからの農村では、古い習俗や悪い慣習を改革することが要務である。また、科学常識の普及や生活方式の健康向上、封建な迷信への耐性や文化生活を豊かにすることが急務である。とはいえ農村で何十年、何百年と続いた習俗や悪い慣習を排除するのは容易なことではない。農民に対する文化教養教育、自己管理教育などを推し進めてゆくことが必要不可欠である。

## 四。「郷風文明」が実施された農村の現状

### 1. 「郷村振興」による農村の現実

「郷村振興」戦略には5つの基本的な原則がある<sup>21)</sup>。① 中国共産党の指導的地位を確立し、農業・農村の発展を党が主導的に調整できるようにすること。② 農民の主体性の尊重と、農民の利益を保障し、共に豊かになる道を歩むこと。③ 人と自然が調和・共生し、環境に優しい文明的な理念や計画を確立することで、エコロジカルな開発を促進すること。④ 改革創新の中で、市場が資源の分配に決定的な役割を果たすこと。また、政府を

通して農業の供給側の構造的な改革を施すことにより、農村の生産力の向上や農民の意欲の喚起につなげること。⑤農村の歴史文化や発展の現状、地域の自然条件・天然資源・産業基盤・開発傾向など、地域の状況に応じて企画すること。

以上の原則によって策定される国家の「郷村振興」戦略に関するスケジュールによれば、2022年までに郷村振興に関わる制度や政策の整備は、ほぼ完了しているはずである。さらに、特色ある郷村振興のモデルや経験も、ある程度蓄積されていることになる。それでは、2021年現在において、「郷村振興」戦略の農村での実施状況はどの程度のものであるのか。また、「郷村振興」戦略によって農村にはどのような変化が見られるのか。さらに、その中で実際に農民はどのような生活を送っているのか。これらの論点を念頭に、筆者は以下のような現地調査を行った。

(1) 日時：2021年6月24～29日。

(2) 場所：河南省安阳市、林州市の石板岩町、三亩地村、南湾村などもともと農村であった観光地。石板岩町は17村を統轄、総人口9,040人、民宿400軒以上（客室3,883室、ベッド1.5万床）、年間の観光客は約65万人。

(3) 調査対象：村の幹部、村の農民、デベロッパー、民宿の経営者、露店の商人、観光客等。

(4) 調査結果1：

政策面の実状：郷村振興について、「国家が制定した中央政府の『郷村振興』政策や法規があるが、地方である河南省内部での『郷村振興』政策や法規と齟齬が生じているため、当初は混乱状態になっていた」と村の幹部は述べている。林州市は「まずやってみる、地元の範囲内で政策を模索する」と地方政策を試行した。そのため数多くの初期開発プロジェクトでは、地方の法規では合法的だが、国家の法規では非合法の状態に陥っていた。しかし、ここ数年で国家と河南省の政策法規に矛盾が生じないように調整され、現在ではすべての開発プロジェクトが地方の法規でも国家の法規でも合法的である。

土地開発の実状：石板岩町は耕地面積が極めて少ない。天然資源は太行山区の観光地としての、嶂石岩地形の風景だけである。地元政府は嶂石岩観光のための開発プロジェクトを急いで推進するために、農民の土地を大量に徴用した。徴用補償額は、土地の用途によって金額は異なるが、一亩（約1/15ha）あたり年間で1,000～1,500元（およそ16,993～25,210日本円）であり、使用期間内に年1回支払われる。「郷村振興」の名目で開発したプロジェクトの具体的な内容は、写生拠点・飲食場所・民宿の設置や、民俗手芸経験、名所旧跡巡り、ラフティング、観光ツアー実施、野菜果物園の収穫体験、などである。

資金の出所：開発会社の資金は、信用金庫からのローンと、村民による団体での株式購入が主である。



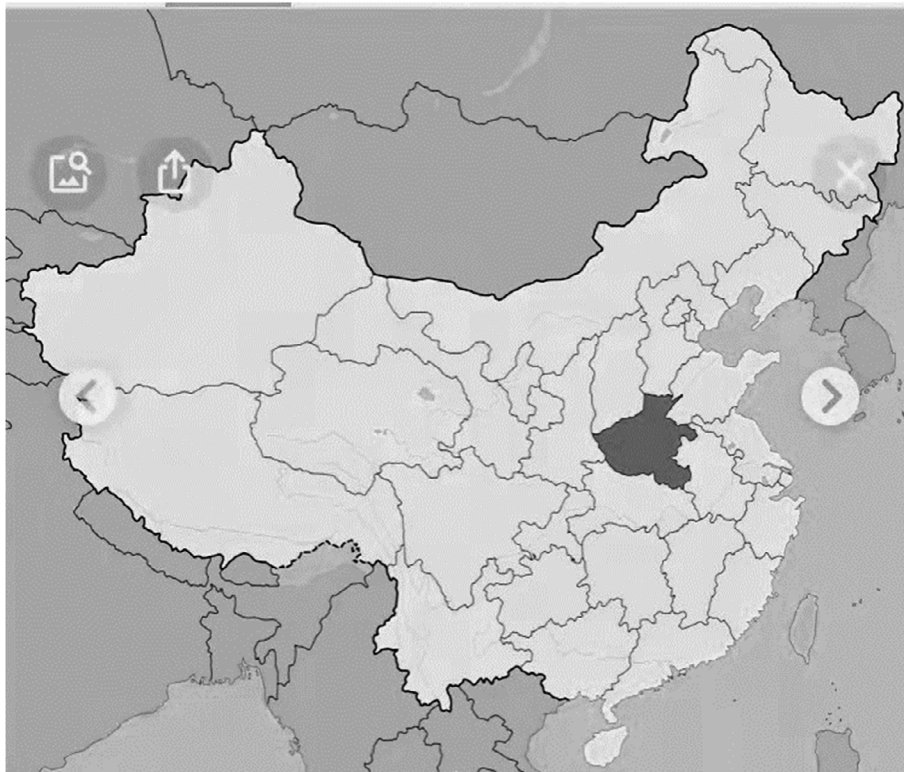


図1 河南省の位置

運営の方式：デベロッパーである林州市の楽峰農業科技サービス有限公司（後に河南樂豐郷村發展サービスグループと会社の名称を変更した）が、各村の開発プロジェクトを企画・組織・実施している。開発に対する意思決定や権利及び利益の配分の決定権は、村の株式経済協同組合（村の共産党支部と村の農民がそれぞれ株式を持っている）と町の連合社（各村の上記協同組合の集合を連合社と呼ぶ）にある。

管理の体制：管理も運営と同じく村の株式経済協同組合と町の連合社が担っている。連合社が資源を調達し、組合と協同的に経営することにより、村のすべての資源をパッケージ化して村の外へ輸出することを図る。

(5) 調査結果2：

習近平国家主席が「自然の中にある資源（生態的もの）を産業化し、産業は環境に配慮したものにし、資源（エネルギー的なもの）を産業化し、産業を資源化する」（生态产业化, 产业生态化, 资源产业化, 产业资源化）と発表した<sup>22)</sup>ことによって、表面的には地方政府の「郷村振興」についての政策が一律化・透明化・標準化することとなった。しかしその一方では、多くの農民の間ではデジタル化が進んでおらず、政府の政策は農村まで届



写真1 三亩地村の写生の拠点

かないと同時に、農村の近況情報も政府に伝わっていないのが実情である。その結果都市部から来た観光客のほとんどが、快適かつ安全な農村環境や低い価格のみをターゲットとしている。したがって、政策に沿った接客の仕様であるかどうかや、標準的なサービスであるかどうかは考えていない。これは政府の政策による想定と、実際の民生の生活が大きく乖離していることを示している。

政府の想定と実状が乖離している反面、「郷村振興」政策は確かに農民の生活を豊かにしている側面も見受けられる。石板岩町の場合、もともと土地資源（農民の使用できる耕地）がほとんど存在しない上に、わずかな土地資源も山地や山間の溼地に位置しているため、農業による土地からの収益は期待できない。一方で土地が徴用されたことによる毎年の土地徴用補償金は、コストのかかる農業をせずとも、農村での基本的な生活を農民に保障することができる。加えて、農民は土地を用いない形で小規模のビジネス、または近所の民宿、飲食店、建築工事現場でのアルバイトを通してさらなる現金収入を見込めるため、「郷村振興」は確かに農民にとって生活を豊かにしていると言える。

石板岩町の各村々、特に三亩地村や南湾村などは前述したように、写生の拠点・民宿・民俗の手芸・観光ツアー・野菜果物園の収穫体験などを経営している。経営はほとんど地元農民による個人経営であり、組織化されていない。こうした場所で働く従業員は農村のお年寄りがほとんどであり、彼らは大抵の場合マイペースで、かつ接客意欲も薄い。

石板岩町の幹部によると、現在の石板岩町は大規模な都市開発を可能とする開発資金自体は充分にあるが、郷村振興はなかなか進まないようである。前述したデベロッパーである林州市の楽峰農業科技サービス有限公司（現在の河南楽豊郷村發展サービスグループ）は、1,000 万円を超える大規模な開発プロジェクトだけでも、14 億元以上の開発補助金を貰っている。国や省から補助金は出されているものの、革新的に産業化を推し進めるといふコンセプトに見合うプロジェクトを未だに見出すことができていないという状況にある。したがって現時点では将来性のある産業プロジェクトを探しているだけにとどまり、出された補助金は有効活用されているとは言い難い。デベロッパー会社の幹部によると、今後の会社の方針は、農村の郷村振興に積極的に参加していくことだという。観光、医療、建築インテリア、運営管理など分野を問わず農村の産業化に携わっていきたいと話す。また、都市部の開発モデルを参考として農村部の開発をしていくことで、農村の都市化をより早められるのではないかと述べた。

前述したデベロッパーによれば、現在の町の管理体制は郷村振興をはじめとして、日本の農協のやり方を部分的に参考したものであるという。既に述べたように、林州市では村単位で「合作社」を構成し、町単位で構成した「連合社」が資源の調整の取り決めや管理を協同的に運営している。具体的には「連合社」が村に入る物資や外に売り出す特産品の売買を仲介しており、モノの流れを一律に管理している。また農村の品を外へ販売することは「連合社」に委託されており、こちらもモノをパッケージ化して販売したのちに利益を分配するまで一律に管理している。

一方で、日本の場合は町や村の役所は政府の公的機関であるため、行政事務以外の地域の農業経営などには干渉しない。また、役所として会社の株式を購入することは禁止されている。これだけでも石板岩町をはじめとする中国の管理体制と日本の管理体制とは根本から大きく異なっていると言える。

(6) 調査結果 3:

「郷村振興」の推進にしたがって、農民たちの生活が豊かになる一方で、様々な懸念点も露になったと考えられる。例えば、土地徴用の制度によって土壤改良を行う農民はいなくなってしまうが、土地の徴用制度は一時的なものであり永続的なものではない。したがって、土地が返還されたときに作物の育てられない状態であった場合は、農民は生計を立てられなくなってしまう恐れがある。ゆえに農村開発では土壤汚染について十分に熟慮しなければ、将来的には農村にとって根本的な問題をもたらす危険が想定される。

また、三畝地村や南湾村の場合、若い世代が都市部へ働きに行くことで、村にはお年寄りや子どもばかりが取り残されるといった状況に直面している。個人の経営する小さな病院は町にもあるが、深刻な病気に罹患した場合は安阳市や林州市にある大きな病院に転送

しなければ、本格的な治療を受けることができない。これが村民にとって一番の悩みの種となっている。また、村の人口の減少が原因で、村にある小学校では3年生以上の学級は撤廃された。町まで行けば小学校はあるが、地理的に遠いので歩いて通うのは現実的ではない。そのため多くの児童は小学校1年生から林州市などの都会にある寄宿制の学校に送られ、幼少期から家族と別れて過ごさなければならないのが現状である。こうした中で児童の早期教育や家庭教育にどのような影響を与えているのかは、今後の研究に期待したい。

特に上記のような若者たちの農村離れは、農村での公共衛生意識の養成や伝統文化の継承、農業技術の習得や訓練、農村社会生活の維持といった様々な面で厳しい現実と直面していると言えよう。

## 2. 郷村の社会文化の変容と「郷風文明」

### (1) 変貌する郷村の環境

「郷村振興」を実施以来、特に「郷風文明」政策によって農村の居住環境は明らかに変わった。調査対象となった河南省の農村社会の様相を見てみたい。

### (2) 職業と人間関係の多様化

国家の科学技術力の発展や「郷村振興」の政策によって、農民の収入源は農業や畜産業に限らず、様々な職種やサービスを含むものへと多様化している。特に2015年以後はインターネットの普及によって、オンライン上での商売やビジネスが爆発的に成長してきた。商売やビジネスの範囲は農産品の販売や農村観光だけではなく、金融・不動産・移住・建築・飲食・医療・介護・教育・レジャーなど多くのサービス業まで拡大した。

職業の多様化にしたがって、農村の人間関係も多様化・複雑化している。家庭内では、伝統的な親孝行や育児といった慣習、またその作法が時を経るごとに変化していった。重要視される人間関係は、文化的には血縁上のつながりを中心とする親族関係に軸足を置く傾向から、職種などの経済上のつながりを中心とする関係が好まれる傾向へと変化していった。これは農村が経済発展する過程で、伝統的な人間関係から都市部に特徴的な人間関係の特色が強くなっていることを意味すると考えられる。

### (3) 風俗と社会習慣の変遷

農村では「郷風文明」を円滑に進めるために、共産党員と村民代表そして「新郷賢」による連携体制が採られている。ここで注目されるのは、「郷風文明」の中で「新郷賢」（地元郷村の出身で、経済・文化・社会地位や人脈づくりに有能な人材のこと）という言葉が使われたことである。「郷賢」は中国の伝統的な社会の中で使われてきた言葉であり、「郷村にいて、高い能力と強い威信を持ち合わせた、社会に大きく貢献する賢明な官僚や才能

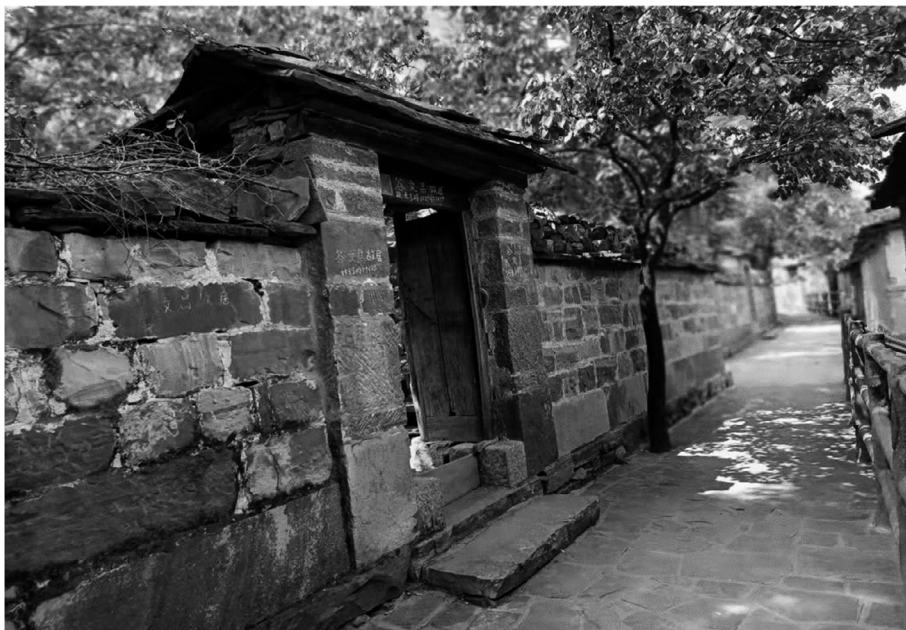


写真2 河南安阳林州市の農村民居



写真3 河南安阳林州市の農村小売店

のある人」を指した。「郷賢」は中国の長い歴史の中で、地位や威信が高く、道徳的に実直かつ公正であり、信用されている人のことである。また、「郷賢」は地方政府と協力して郷村の行政事務や郷民間のトラブル、社会矛盾の解決、社会の安定や風俗の純化などの面で重要な役割を担うとされる<sup>23)</sup>。「新郷賢」は「郷賢」に対する現代的な言葉である。この言葉の意義は、地元に対しての郷愁や郷心を抱かせ、地元出身のエリートなどが地元郷村に貢献する意欲を喚起することである。

また、農村では道徳や威信のある共産党員の代表、村民の代表、村の「新郷賢」、司法ボランティアからなる「郷風文明理事会」が、具体的な村の冠婚葬祭について指導する<sup>24)</sup>。「郷風文明理事会」の役割は主に以下の8つとされる。①冠婚葬祭という伝統行事を革新する。②郷風民風を評議する。③村規民約を提唱する。④社会主義の核心である価値観を宣伝する。⑤優良生活習慣を養成する。⑥環境の衛生に気を配り清潔や美化を意識する。⑦現代技術を人々に享受させる。⑧文明的な町を建設する。この8項目を軸として、「郷風文明理事会」を筆頭に人々と「郷風」を徹底的に「文明化」させたいという政府側の期待が明確に見て取れる。

## 五、「郷風文明」の限界と今後への展望

### 1. 「郷風文明」の光と影

中国の国務院新聞事務室の紹介によると、「郷村振興」戦略実施以来、農村では今までにない成果を達成しているという。中でも農業の分野での成長は著しく、わずか4年間で成果を挙げた。達成した成果は主に5つあるという<sup>25)</sup>。

1つ目は6年続く豊作であり、毎年1.3万億斤以上の食糧生産に成功している。持続的な産量は世界1位をキープしており、中国の食物自給率の維持に貢献している。2つ目は農業の現代化の加速である。農村では農業科学技術を利用して高水準な農地が新たに合計8億畝作られた。農業の機械化率は71%に達し、農産品の電子商取引やネットビジネスなどの新産業も盛んに発展している。3つ目は、農村が貧困脱出に成功したことである。9,899万人に及ぶ農村の貧困人口層は、絶対的な貧困から脱した。中でも500万人の最貧困人口に対しては、再び貧困に陥ることに避けるために具体的な援助方法も策定した。4つ目は、郷村建設（主にインフラ整備など）を徹底的に推進したことである。基本的な動力電、コンクリート道路、4Gネットなどを、すべての村に普及させることを実現した。現在では農村でも公衆トイレの普及率は68%を超えている。また、農民を対象とした基礎的な年金と医療保険制度を新たに制定した。5つ目は、郷村の管理レベルが向上したことである。村にある共産党の末端組織を強化し、自治、法治、徳治を組み合わせる管理体

制を確立した。

以上のような「郷村振興」戦略が与えた農業経済と農村社会への大きな変革は、今もなお続いている。一方で政府が急激な「郷村振興」を進めてきた反面、政策について行くことが困難な農村の現状との間に乖離が見られ、「郷村振興」戦略には限界が表れていると中国の政府関係者や研究者は指摘している<sup>26)</sup>。筆者は前述の調査地における観察に基づいて、「郷風文明」と関わるいくつかの問題点について考えてみる。

#### (1) 農村を都市部と同等に扱うことについて

「郷村振興」戦略では、農村の開発建設に際して政府から様々な援助金が配分される。本来であれば村は援助金を受け取り、村のインフラ整備や基本的なサービスの育成と訓練をするべきである。しかし実際は、多くの農村では都会からデザイナーを雇って、都市部をモデルとして村の建設を計画したり、インテリア・デザインなどを行ったりしている。その結果農村でも、都市部と同じように公園、図書館、博物館、市民センター、レストラン、ジムなどを備えた現代的な街並みへと変貌した。しかし農民にはこれらの施設を利用する習慣も経済的な余裕もない上に、都市部と代わり映えない景観の農村は、観光的な価値も薄い。最終的には莫大な資金を投入して建設した「郷村旅游」に伴う農村の観光施設は、表面的な豊かさを村にもたらしたように見えるが、実質的にそれらを利用できる人はほとんどいないため、経済的価値の面であまり評価できないだけでなく、文化的な役割も果たせていないと言える。

#### (2) 村と村による競争について

中国の農村でよく見られる現象として、競争内容の同質化が挙げられる。競争内容の同質化とは、同じような財やサービスを用いて競争することである。特に一旦流行して世間でブームとなったモノが出ると、多くの人が一斉にそれぞれ模倣して同じようなモノを提供するため、同質の内容で激しい競争が起こる。例を挙げると、前述した「郷村旅游」（農村観光）が流行したときには、多くの農村が同じような観光業を始めた。また、「农家乐」（農家食堂と民宿）のブームが来た際には、ほとんどすべての農村で、農家が「农家乐」を経営し始めた。しかし、同じ地域帯で気候や風景、民俗や物産、料理などが似通っているため、業者間の競争は激化することとなる。結果的にコスト削減のため、市場で安い食材を使うこととなり、「农家乐」の当初のコンセプトである「自家産で旬の食材を使う」という魅力が無くなってしまった。同質化された激しい競争が行き着く先は共倒れだけであり、実際に一時期には郷村の社会生活や文化を代表するほど人気を博した「农家乐」や「郷村旅游」は現在、ともに人気度が衰退している。これは農民間による競争内容の同質化が招いた結果であるといえ、その原因は地元政府の農民への産業指導不足にあると考えられる。

### (3) 資金の浪費について

近年、国家は「郷村振興」のために様々な補助金制度を設立した。村は毎年補助金の申請の内容によって数百万円から数千円を国から給付して貰える。しかし、膨大な開発資金が給付されても、依然として村の産業化が進まず、村民が就職できない状態や安定した収入源がない状態が続いている。これは国から給付された補助金の利用方法を決定するのが村の委員会であるということが原因である。ほとんどの農村では、村の委員会は地元出身の農民で構成されており、商売やビジネスのノウハウがない。そのため補助金があっても、農村の私生活以外に使い道を見出せないことが多い。また、郷村の産業振興のために国が出した補助金は、大部分が道路整備や公共衛生などに使われ、文化的な産業を創出することにはつながらないことが多い。ゆえに「郷風文明」は実際のところ村の外部環境の改善だけにとどまっており、根本的な解決には至っていないと言える。

### (4) 情報ネットワークの構築について

中国では約 2,846 の県（郡）、38,755 の町、700,000 近くの村がある<sup>27)</sup>。それぞれの村ごとに観光、物産、人文、地理といった特色が異なる資源を持っている。「郷村振興」戦略には、固有の資源、政府の補助金、村の外からの投資運営会社、のいずれもが欠かせないが、農民は投資運用会社の情報を知る術がないため、投資会社の選び方や依頼手順に暗い場合がほとんどである。現在の中国ではインターネットや携帯電話に加えて様々なオンライン上のショッピングが存在するが、農民側から一方的に投資運用会社に協同開発という名目で要請を提出しても、相手にされない場合がほとんどである。開発の依頼には信頼関係が肝要であり、時間をかけて築いていくしかないのである。一方で投資運営の会社にとっても、投資や開発する企画力だけでなく事前の綿密な検討や調査が必要である。しかしながら、700,000 近く存在するすべての村々を対象に十分な検討や調査を行うことはあまり現実的ではない。したがって中国国内には豊富な自然資源を持つものの、投資運営会社による産業開発待ちをしている村が数多く存在しているのである。つまりこの状況を打開するためには、資源を持つ農村部と資本を持つ投資開発会社との間に、両方をつなぐ情報ネットワークが欠かせないのである。よって目下の急務は情報ネットワークの構築である。

### (5) 交通安全の意識形成について

農村経済の発展や農民の生活水準向上にしたがって、農村では農業用車や乗用車などの普及率が高くなり、農民による車両の保有数も大幅に増加した。これは農民の生産能力の向上につながる一方で、農村に混乱をもたらしている。農村では道路や交通標識の整備が充分になされていない現状に加え、農民自身の道路交通法の遵守や安全運転などの意識が薄いことや、無免許運転、車両の違法改造など様々な問題が山積みのものである。した



がって農村の交通状況は混乱を極めており、毎年多くの人が交通事故で亡くなっている<sup>28)</sup>。このような実状の下では、豊富な自然資源を抱えていても、外部から投資家を招致するのは困難である。

## 2. 今後の政策上の展望

近年は、政府が様々な政策で「郷風文明」を推進している。その過程の1つに「四大行動」がある。「四大行動」とは、「農村で文化活動を行うこと、村内環境を整えること、村の習俗や社会慣習を変えること、村に模範となるモデルを確立すること」の4つである。政府の想定する農民の人生の目標は、単に立派な家や車を所有することだけではなく、精神的に満足した生活や、尊厳のある人生を送ることである<sup>29)</sup>。

前述の「四大行動」で、農村の環境は物質的にも文化的にも大幅に改善されつつあるという。2021年3月12日、政府は「中華人民共和国国民経済和社会发展第十四个五年规划和2035年远景目标纲要」を公表頒布した。この中では浙江省を「高質量發展建設共同富裕示范区」に指定した。同年5月20日、中共中央と国務院は浙江省の高質量發展共同富裕示范区の建設を支持することを表明した。6月10～11日、浙江省の「省党の委員会第十四回会議第9回全体会議」で「浙江省における高質量發展共同富裕示范区の建設に対する実施方案（2021-2025年）」を審議した。7月19日、「浙江省における高質量發展建設共同富裕示范区に対する実施方案」を正式的に頒布した。まとめると、全国の中でも富裕層の多い浙江省をモデルとして、高水準の富裕区を建設しようとする計画である。ここでいう高水準とは、「四个高地、两个示范区、一个家园」のことである<sup>30)</sup>。2035年までに浙江省を高水準な富裕区とする計画を実現することで、中国社会主義体制の優位性を諸外国へ全面的にアピールする狙いがある。さらに浙江省を筆頭に、2049年には各省が共同富裕の目標を達成することが「郷村振興」の最終の目標である。

今後は「郷村振興」の全面的な推進に伴い、「郷風文明」の水準も高くなると予想される。農民の思想の変化、道徳の強化、農村の公共施設の充実、伝統的な文化の伝承と発展、古い習俗や慣習の改革、といった「郷風」を徹底的に「文明化」すること、このことが国際影響力の強化、伝統や現代の民族文化の掘り下げ、中国のブランド力向上、品位のある国民性の醸成、という次のステップへとつながると考えられる。中国政府の最終的な目標は、中国全体の文化水準を経済水準に匹敵するレベルまで引き上げ、発達した文明的で現代的な社会主義の強国を達成することである。「郷風文明」は「郷村振興」の出発点であると同時に「郷村振興」の終着点でもあり、これからの国家戦略の中でも重要な位置づけとなると考えられる。

## 六. 「郷村振興」と日本の「農村振興」

現在中国で推し進められている「郷村振興」と似たような政策が、日本では1960年代から「農村振興」戦略として実施されてきた。上述の中国における状況との比較の視点から、ここで簡単に触れておこう。

日本の「農村振興」は1961年における「農業基本法」の実施から、1999年に頒布された「食物、農業、農村基本法」までの期間に段階的に推進され、持続的な成長と発展によって目標を達成してきたと考えられる。具体的な例を挙げると、1960年代の農村では低所得と居住環境の悪さに直面していたが、政府が給付金を出し、インフラ整備を中心に「農村振興」を進めたことで農村自体の生産能力が改善された。1970年代には都市よりも農村の平均収入が高い状態になり、「農村振興」の中心はインフラ整備から農民の就職や福利厚生へと移り変わっていった。

1990年代以後の経済のグローバル化は、日本の食物自給率の持続的な低下、農業従事者の高齢化、農村の過疎化や関税の撤廃など様々な農業の問題を浮き彫りにした。1999年の「食物、農業、農村基本法」の中で「農村振興」戦略の重点は、農民の就職や福利厚生から、都市と農村の交流や農村の自然資源の保護及び開発資金の確保などへと移り変わっていった<sup>31)</sup>。

特に「農村振興」の目標を達成するために、日本の「農村振興」戦略では主に以下の5つの対策が採用された<sup>32)</sup>。

### (1) 「農村振興」発展企画の制定

政府は5年ごとに農業発展企画を制定する。地方自治体は5年分の「農村振興」を企画する。農林水産省を中心に「農村振興」の合同会議を設ける。合同会議では地方自治体の「農村振興」企画を指導し、政府と地方自治体との仲介を行う。

### (2) 「農村振興」を統括する機関の設置

農林水産省は「農村振興」局を設立して、「農村振興」に対する政策や規画を制定し、地方自治体、民間団体と農協を指導して、「農村振興」のプロジェクトを実施する。

### (3) 状況に合わせた「農村振興」の推進

「農村振興」を状況に合わせて推進する。特に山地や丘陵地の農村経済は重点的に振興する。また、農業の多様性や多機能性を考えて農業の付加価値や効率をあげる。同時に、農業生産のインフラ整備や農村の生活環境を改善して、農民の社会福祉を向上させる。情報システムやインフラ整備、社会教育やレジャー場所の充実を進める。都市と農村の交流を促進することで、農村観光や農村レジャーを活性化させる。

#### (4) 「農村振興」の資金

「農村振興」の資金の種類も額が大きい。統計によると、2016年の日本の「農村振興」に投入した補助金は6,281億円であり、日本財政の農業を支持する資金の23%を占める。

#### (5) 人材の養成と文化の再発見

農園体験などのプロジェクトや人材育成によって、増加する新規参入農家を養成する。また、日本の伝統である農耕文化を再発見し、農村地区の「郷風文明」の確立を促進する。

以上の対策から、日本の「農村振興」の対象は単に農業や農村の振興だけではなく、農村社会全体に及ぶことが分かる。その結果、農村と都市は同様に発達し、農村の平均年収や社会福祉は都市よりも高く、農民の生活は安定している状態にあると言える。

### おわりに

中国と日本の農村の振興政策は一見似通っているが、農業の規模や構造、農業資源の数量や農産物の種類は全く異っている。中国の場合は広大な土地と豊かな自然資源に加えて多種多様の農産物があるが、農産物の加工技術や大規模な保存技術が伴っていない。農村では産業化が望まれているが、資金や経験の不足によって難儀している。農民のほとんどは未だに現代の農業技術を習得していないことが多いため、農作業の効率はなかなか上がらない。一方で日本の場合、土地や自然資源が少なく、農産物の種類も多くはない。しかし長らく「農村振興」を実施してきたため、農業技術が発達しており、新規参入農家を養成する制度が整っている。しかし、食糧自給率の低下や農業従事者の高齢化、農村の過疎化などの問題を抱えたままである。

農業資源の面で補完性が高い両国は、もっと積極的に協力・連携することが望ましいと考えられる。中国の「郷村振興」の目標は「産業の活性化、環境に配慮した住みやすい街づくり、郷風文明、管理によって成果を得ること、生活水準の向上」であるが、事実上日本では既にこの目標が達成されている。よって、「郷村振興」の視点から見れば先達となる日本は、中国に優れた技術や豊富な経験などを提言することで、一方中国は日本に莫大な市場を提供することで、双方に相乗的な農業効果を生み出すことができるだろう。

#### 注

※ウェブページについてはいずれも2022年2月に閲覧した。

1) 百度百科, 2021年10月30日, 乡村振兴战略 the rural revitalization strategy.

2) 同上.

3) 同上.

- 4) 同上.
- 5) 湖北大学马克思学院, 2019年6月15日, 「农村社会人口结构与变迁」, 百度百科, 2021年10月31日.
- 6) 温铁军, 2008年9月15日, 「2008年金融海啸后, 中国发生了什么」, 百度史来赏鉴, 2021年10月31日.
- 7) 同上.
- 8) 蒋南平, 蒋玲, 蒋晋, 2019年7月, 【中国新时代与乡村振兴】, 四川成都, 西南财经大学出版社, pp.124, 131.
- 9) 共产党员网, 2017年12月28日-29日, 「2017年中央农村工作会议」, <http://www.12371.cn>
- 10) 中华人民共和国中央人民政府网, 2019年9月1日, 「中国共产党农村工作条例」, <http://www.gov.cn>
- 11) 中华人民共和国国务院新闻办公室, 2021年4月6日, 「人类减贫的中国实践」, <http://www.people.cn>
- 12) 中国日报网, 2021年6月30日, 「中国共产党两个100年奋斗目标 Two Centenary Goals」, <http://www.China Daily.com.cn>
- 13) 见闻坊, 2021年8月11日, 「乡村振兴五大中心内容」, <http://www.jwfl.com.cn>
- 14) 乡村振兴战略编写组, 2019年7月, 【乡村振兴战略简明读本】, 北京, 中国农业出版社, p. 16.
- 15) 同上, p. 8.
- 16) 求是网, 2019年11月11日, 「乡村振兴战略背景下的乡风文明建设」, <http://www.QSTHEORY.cn>
- 17) 同上.
- 18) 肖金成, 胡恒洋等, 2020年3月, 【中国乡村振兴新动力】, 北京, 中国农业出版社, pp. 196-197. 中国经济网, 2019年11月12日, 「乡风文明建设让乡村更美好」, <http://www.ce.cn>
- 19) 2012年11月8日, 中国共产党第18次全国代表大会の中で「要培育和践行社会主义核心价值观…“富强, 民主, 文明, 和谐, 自由, 平等, 公正, 法制, 爱国, 敬业, 诚信, 友善”を提唱する」と24字で社会主義核心價值観を要約した.
- 20) 党の十九大報告の中で習近平国家主席が“坚持文化自信, 推动社会主义文化繁荣兴盛”を強調し, “深入挖掘中华优秀传统文化蕴含的思想观念, 人文精神, 道德规范, 结合时代要求继承创新, 让中华文化展现出永久的魅力和时代风采”と語る. 百度百科, 2021年11月5日, 中国共产党第十九次全国代表大会.
- 21) 土地流转网, 2021年5月27日, 「全面实施乡村振兴战略所遵循的五大原则」, <http://www.TULIU.com>
- 22) 中华人民共和国中央人民政府网, 2018年5月19日, 「习近平出席全国生态环境保护大会并发表重要讲话」, <http://www.gov.cn>
- 23) 陈忠海, 2018年4月26日, 「乡贤与乡村治理」, 【中国发展观察】, 2018年第8期, 北京, 国务院发展研究中心.
- 24) 徐勇, 邓大才, 【中国农村研究】, 2020年4月北京, 中国社会科学出版社, pp. 217-218.
- 25) 中华人民共和国国务院新闻办公室, 2021年9月28日, 「实施乡村振兴战略四年来取得五方面重要成果」, <http://www.scio.gov.cn>
- 26) 西南大学乡村建设学院, 【乡村建设研究】, Green Ground 微信公众号: gh-2faa9a47499e, <http://www.ruralstudies.com>
- 27) 百度百科, 2021年11月3日, 「中华人民共和国的行政区划划分」.

- 28) 原创力文档, 2021年1月13日, 「农村道路交通安全管理工作的调研报告」, 微信公众号: chengduyuanchuang, 2019年7月19日, 「农村交通安全存在的问题, 原因及对策」, <http://www.gzhezhang.gov.cn>
- 29) 富宁县人民政府, 2020年9月16日, 「木央镇四大行动推进乡风文明建设」, <http://www.ynfn.gov.cn>
- 30) 太行学社, 2021年10月9日, 「浙江高质量发展建设共同富裕示范区实施方案(2021-2025)」, <http://ti.hgu.edu.cn/>
- 31) 中国政策研究网编辑部, 2019年12月, 《乡村振兴政策解读与经验集萃》, 北京, 言实出版社, pp. 492-502.
- 32) 中华人民共和国农业农村部, 2019年2月22日, 「日本乡村振兴战略的借鉴和启示」, <http://www.moa.gov.cn>. 曹斌, 2019年6月15日, 「日本乡村振兴的实践与启示」, <http://m.people.cn>

### 参考文献

百度百科.

陈忠海, 2018年4月26日, 「乡贤与乡村治理」, 《中国发展观察》, 2018年第8期, 北京, 国务院发展研究中心.

富宁县人民政府 官网, <http://www.ynfn.gov.cn>

共产党员网, <http://www.12371.cn>

蒋南平, 蒋玲, 蒋晋, 2019年7月, 《中国新时代与乡村振兴》, 四川成都, 西南财经大学出版社.

见闻坊, <http://www.jwzfl.com.cn>

求是网, <http://www.QSTHEORY.cn>

人民网, <http://m.people.cn>

土地流转网, <http://www.TULIU.com>

太行学社, <http://ti.hgu.edu.cn/>

西南大学乡村建设学院, 《乡村建设研究》, Green Ground 微信公众号: gh-2faa9a47499e, <http://www.ruralstudies.com>

乡村振兴战略编写组, 2019年7月, 《乡村振兴战略简明读本》, 北京, 中国农业出版社.

肖金成, 胡恒洋等, 2020年3月, 《中国乡村振兴新动力》, 北京, 中国农业出版社.

原创力文档, 微信公众号: chengduyuanchuang, <http://www.gzhezhang.gov.cn>

中国经济网, <http://www.ce.cn>

中国日报网, <http://www.China Daily.com.cn>

中国政策研究网编辑部, 2019年12月, 《乡村振兴政策解读与经验集萃》, 北京, 言实出版社.

中华人民共和国国务院新闻办公室, <http://www.scio.gov.cn>

中华人民共和国农业农村部, <http://www.moa.gov.cn>

中华人民共和国中央人民政府网, <http://www.gov.cn>